

問 猛暑・豪雨などの異常気象対策は

今夏の日本列島は、異常気象に見舞われた。7月の平均気温は平年を2.8度も上回り、統計開始以来最高を更新した。当市における市民への対応は。また、学校現場での対応と今後の対策は。また、生活保護受給者へのエアコン購入の対応について問う。

答 状況を注視し適切な対策を実施する

熱中症対策として、広報・防災無線などによる注意喚起を実施していく。学校においては、国や県の通知にもとづき、適切に対応していく。また、生活保護受給者に対しても冷暖房器具の設置費用などを扶助するなど、関係各課が状況を注視し対応していく。



高木隆三 議員
(公明党)

問 高齢者の多剤服用と残薬削減対策は

厚生労働省は、薬の適正使用を求めるガイドラインをまとめた。処方薬の飲み残しは年間500億円である。有効活用するため、横須賀市薬剤師会は回収バッグを作成配布した。結果、約275万円の残薬を再利用し、医療費削減につながった。当市でもシステム作りを。

答 薬剤師会と連携して対策に取り組む

市薬剤師会の保険薬局において、患者から提供された残薬を「お薬手帳」で確認し、処方した医師の了承を得て、残薬の調整を実施している。市は、残薬の再利用の推奨および内服薬の自己管理のための「お薬手帳」の活用について周知啓発に努めていく。



問 農業に対する考え方を 変えては

農業者も商工会に加入し、商業の持っている商品開発、販売促進、税務経理を吸収したらどうか。また、農商の垣根をなくすようにしたらどうか。農業経営にもプロデュースが大切で、貸農園など農業以外の人たちの力を借りて農地の維持保全が可能になるのでは。

答 効果的な経営手法を提示していく

商工会への加入は、今後も商工会や関係機関と連携し多くの業種に呼び掛けていく。農業経営として、農業法人などへの利用集積を進め、経営規模の拡大を図ることが第一と考える。大規模耕作に向かない農地などは、小規模市民農園としての活用も有効と考える。



遠藤 誠 議員
(無所属)

問 下校の見守りの効果を再度知らせては

このごろの小学生をめぐる事件を見ると、地域の人々が下校する児童を見守る意味は大きい。事件の抑止力として再評価したらどうか。また、白岡市を子育て世代が住みたい、住み続けたいまちの重要な鍵にできるのではないかと。

答 安全確保に向けた体制の整備充実を図る

小学校の授業日すべてで、ボランティアによる登下校の見守りが行われている。今後は、地域とともにある学校づくりを進めるため、学校関係者、保護者および地域のかたを構成員とする学校運営協議会を順次設置し、安全教育を含めたよりよい教育の実現を目指す。



下校の見守り